学習指導要領　内容(4)　近世の日本　イ　江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
内容の取扱い(5)　イ　イの「鎖国下の対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。
学習指導要領解説(P79)　「鎖国下の対外関係」については、長崎での「オランダ、中国との交易」(内容の取扱い)、対馬を通しての「朝鮮との交流」(内容の取扱い)、中国とのかかわりにおける「琉球の役割」(内容の取扱い)、蝦夷地で独自の文化を築いていたアイヌの人々が、海産物など「北方との交易をしていた」(内容の取扱い)ことに着目させ、統制の中にも交易や交流が見られたことに気付かせる。

教育出版

P105「アイヌ民族と松前藩」

蝦夷地（北海道）では、アイヌ民族が、千島列島や樺太、中国にわたる広い地域で、豊かな海産物や毛皮などの交易をしながら暮らしていました。17世紀になると、渡島半島の南部を領地とした松前藩が、アイヌの人たちとの交易を独占する権利を幕府から認められました。アイヌの人たちは、大量の鮭をわずかな米と交換させられるなど、和人との不利な取り引きを強いられたので、1669年、シャクシャインを指導者に団結して立ち上がりました。しかし松前藩との戦いに敗れ、さらに厳しく支配されるようになりました。

松前藩は、和人とアイヌ民族の住む地域を分けたうえ、家臣たちには、米の代わりにアイヌの人たちとの交易の権利を与えました。

P104〔地図〕「鎖国下の日本の窓口」
P105〔写真・図〕「シャクシャインの像」

東京書籍

P111「アイヌ民族との交易」

蝦夷地（北海道）には、アイヌ民族が住んでいました。アイヌの人々は、漁業などに従事するとともに、和人とだけではなく、千島列島や樺太（サハリン）、中国大陸の黒竜江流域の人々とも交易していました。蝦夷地の南部に領地を持つ松前藩は、アイヌの人々との交易を独占し、わずかな米や食器などの日用品を、大量のさけやこんぶなどと交換し大きな利益を得ました。これに不満を持ったアイヌの人々は、17世紀後半、首長のシャクシャインを中心に戦いを起こしました。

P110〔地図〕「鎖国下の窓口」
P111〔写真・図〕「蝦夷錦を着たアイヌの首長」
「シャクシャイン」

P126～127「松前藩とアイヌの人々」

江戸幕府が成立すると、松前氏は、徳川家康からアイヌ民族との交易の独占権があたえられ、1万石の大名となり、松前藩が成立しました。松前藩は、倭人が住む松前、函館を中心とした渡島半島南部を和人地とし、上級家臣には知行としてアイヌ民族が住む蝦夷地での交易の独占権を与えました（商場知行制）。こうした家臣たちは、本州から米や酒などを仕入れ、さけやこんぶ、毛皮などと交換し、松前の城下に集まる本州の商人に売りました。

18世紀になると、商人が商場における交易をうけ負い、知行をもつ家臣などへ上納金を払うようになりました（場所請負制）。商人は、漁場の経営を行い、アイヌの人々を労働者として使うようになりました。江差（江指）を中心としてにしん漁が発達し、加工されたにしんは、上方や江戸の近郊で商品作物の肥料に使われ、こんぶ、いりこ、干しあわびなどの海産物は長崎に送られ、「俵物」として中国への主要な輸出品となりました。廻船業者の高田屋嘉兵衛は、函館に支店を置き、択捉島までの航路を開きました。

18世紀末、ロシアが日本に来航するようになると、幕府は蝦夷地や樺太の探検を行い、松前奉行を置いて直接支配しました。ロシアとの緊張関係が弱まると、蝦夷地は松前氏に返還されますが、日米和親条約によって函館が開港されると、幕府はふたたび蝦夷地の大部分を直接支配しました。

P127〔写真〕「蝦夷錦」

帝国書院

P105「蝦夷地への窓口」

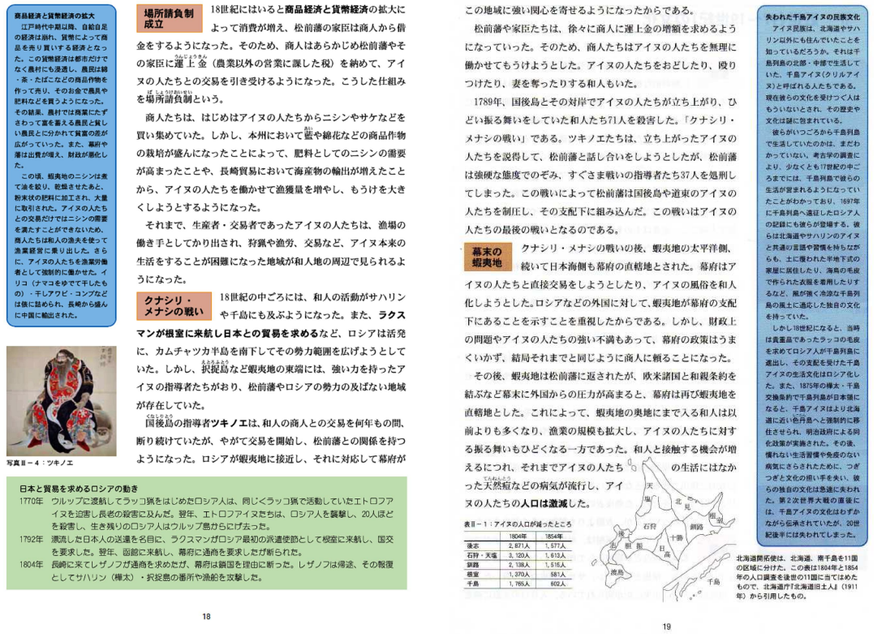
蝦夷地（北海道）の南西部を領地とした松前藩は、耕地がとぼしく冷涼な気候で米がとれなかったことから、石高のかわりに蝦夷地でアイヌの人々と交易する権利を幕府から認められました。蝦夷地には、和人の住む和人地がありましたが、その他の大部分はアイヌの人々がくらしていました。アイヌの人々は、漁や狩りを行ってにしん・さけ・昆布などの海産物や毛皮などを渡島半島や東北地方まで運び、米・木綿。鉄製品などと交換していました。

P105「交易をめぐる衝突」

やがて、松前藩の武士がアイヌの人々の住む地へ行って交易を始め、品物の交換比率がアイヌの人々にとって不利なものになると、松前藩に対する不満が高まりました。アイヌの人々は、かつてのようなアイヌ主体の交易を求め、松前藩と対立し、1669年にシャクシャインを中心に立ち上がって戦いとなりました。幕府の支援を受けた松前藩は、アイヌ勢を破り、交易を独占するようになりました。18世紀になると松前藩の武士は、漁業交易を大商人に請け負わせ、のちには漁場に多くのアイヌの人々が働き手としてかり出されることになりました。

P105〔図〕「アイヌオムシャのようす」
P105〔地図〕「1699年ごろの蝦夷地」
P105〔写真〕「松前藩とアイヌの人々の取り引き」
P105〔写真〕「シャクシャインの像」

副読本の記載

Ⅲ　近世（17～19世紀）の政治・社会
P16～17「松前藩の成立とシャクシャインの戦い」

P18「場所請負制成立」　P18～19「クナシリ・メナシの戦い」　P19　「幕末の蝦夷地」